

アマダイ通信NO. 49

(Tile fish network letter)

05年ムクゲ咲く

知人・友人各位

中国やインドなども招かれたサミットの初日にロンドンで同時爆弾テロが起き、今更ながら国家間の、そして国民間の絶望的な亀裂の深さが確認された。BRICSと持て囃される国々でさえ、食うや食わずの多くの国民を抱え、テロ対策に腐心する。それらの国も含めてのテロ対策共同宣言は、国家を超えた戦争の時代に入ったということなのか？

思えば、人間として生まれた者同士が、食し合わなくなったのは何時頃からだろう？なぜ人は人を食べないのか？数多の人間が飢えて死んでいくこの地球上で、鱈腹食べてぬくぬくと肥え太るのは、人を食って生きているような気がしないでもない。冒頭から人を食ったような話で恐縮だが、ビールの喉越しの良さに釣られての暴飲暴食、反省はしても中々止められない。

◎資本による世界革命と労働者の一国革命、資本は国家の壁を越えられるか？

フランスの国民投票でEU憲法の批准が拒否され、冷戦体制の崩壊後、破竹の勢いで進んだEUの東方への拡大と統合も一頓挫した感がある。EUの運動は、独・仏間で戦争の原因となった鉄鋼と石炭を共同で管理することで、戦争の原因を無くそうとすることから始まった。が、冷戦体制の崩壊後急速にEUは旧東欧諸国に拡大し、単一通貨ユーロを採用することで、一人当たりの国民総生産で10倍以上も格差のある諸国の経済が統合される、労働力と資本の移動が自由になる、国境の壁がなくなるということに、先進国フランスの労働者がノーと言い、オランダの国民もノーと言った訳である。


無限に自己増殖を繰り返すことで利潤の最大化を図ろうとする資本の運動は、市場の拡大と安価な労働力を求めて、国家の壁を越え、無意識に均一な世界を創ろうとする。他方、日々消失する労働力を少しでも高く売ること、より豊かな生活を実現しようとする先進国の労働者は、労働力市場への供給の制限を求め、国境の壁を低くすることに抵抗する。国家の枠の中で労働力を高く売、労働分配率の上昇、分配の平等を求める。恰も資本がグローバルゼーションという名の世界革命を目指し、労働者が一国革命を求める。資本がEUの拡大と統合の深化を求め、先進国労働者がそれを拒否する現状をみると、何やらそんな気がしてくる。


かつてマルクスは労働者階級による世界革命を唱え、労働者はインターナショナルを歌い、国際連帯を訴えた。だが今、世界中を巡り歩いてもインターナショナルの歌声を聞くことはない。相変わらず社会主義国家を標榜し、共産党による一党独裁を堅持する中国においてさえ、インターナショナルを歌うように誘われたことはないし、聞いたこともない。今や愛国主義が声高に叫ばれ、国益を主張するのに急である。“立て飢えたる者よ！”、今や世界中に飢える者は皆無なのだろうか？

◎上海で結婚式？何を着るんだ？

娘の結婚式前日の6月3日は東大三鷹寮の40年、41年入寮生の合同同期会。40年入寮の小林節さんが社長をする皇居前のパレスホテルの、ファーストスクエア宴を1年前に予約済みだ。美味しい料理に舌鼓を打ち、小林社長差し入れのワインで話に花が咲く。



40年入寮の森林総研理事の桜井尚武さんが、二次会は八重洲の・・・と大声で案内しているが、明日のフライトに遅れたら娘に一生恨まれる。一次会だけで切り上げる。だけ式当日の朝上海に向かう。十時半離陸だから、九時に着けばいいだろう。律儀に二時間前に成田行くことはない。五時起きして準備、カミさんに言われた様に猫のトイレを掃除、餌と水もたっぷりやる。六時にタクシーを呼び、小平の駅に向かう。成田に九時近くに着きカウンターでチケットを受け取ると、十時発の便だという。勘違いしていたらしい。慌てて手続きして搭乗する。このところ信頼度を落している JAL だが、定刻通り正午過ぎに浦東空港に降り立つ。大丈夫、間に合う。ホテルへ向かう。

3時から花園飯店（ホテルオークラ上海）の前庭の、市民公園の芝生の上で人前結婚式だ。花嫁と花婿はそれぞれウェディングドレスとタキシード、日本在住の花婿の父は黒の礼服、娘の言を信じたは紺のスーツと、少しチグハグだ。結婚式の価値は服装で決まる訳ではない。想いの深さだ、と気持ちを励ます。上海の六月の晴れた空から照りつける日差しはきつく、優に30度は超えている。結婚行進曲の生演奏の中、バージンロードを娘と腕を組んで歩く。リハーサルなしなので、足が合わない。額に汗が走るのは暑さのせいかな？花嫁はドレスの裾を踏んで時々前のめりになる。上海市民の見守る中、新郎と新婦が指輪を交換し、接吻を交わして結婚式は無事終わる。

中国では結婚披露宴もただ飲むだけだと聞いていたが、花婿もタキシードから中国服、花嫁はウェディングドレスからチャイナドレスを二度着替え、蛍光のシャンパンが幾つものグラスを流れ落ち、ケーキカットあり、キャンドルサービス、花束贈呈・・・と、客の服装こそ思い思いで、親の出番も少ないが、日本と余り変わらない感じで盛り上がる。聞けばプロデュースしているのは、日本のワタベウェディングだという。日本の少子化と中国の経済発展に対応、富裕層を対象に、商魂逞しく上海に進出している訳だ。結婚費用も日本と余り変わらない。最後に二人一組の獅子舞が二組登場して、賑やかなジ・エンドとなったのは中国流？


◎子育ての楽しさを！

最近二人目の男の子ができた息子に続いて娘も結婚して独立、子育ての責任は果たしたことになる、ある種の達成感と同時に一抹の寂しさも感じます。このところ年に数回海外旅行に行きますが、娘はよく付き合ってくれました。これまでのようにお父さん、たまには一緒に外国旅行に行こうよ、と言ってくれますが、中々、そういう訳には行かないと思うところで、娘のいないことを実感します。息子のところの4歳の孫娘と一緒にいけるようになるのが楽しみです、そうなるにはまだ時間がかかります。

娘が中学生になる92年に、それまでの床面積75平米のマンションから、現在の110平米の戸建に引越しました。バブルが弾けて不動産価格が下がり始めた頃で、買い時と思い2千万円上積みして4千万円のローンを組んだのですが、その後も不動産価格は下がり続け今や不良資産化しているようです。売ると幾らになるのか、聞くも恐ろしい感じですが、得体の知れない？商売にも関わらず、自己破産もせずに毎月20万円返済できているのはダブルポケットだからでしょうか？一度近くの戸建分譲の現場で月幾らくらいで貸せるか聞くと、14万円という答えが返ってきました。完全に逆ザヤです。子供二人が家を出、妻と二人なら110平米も必要ない、二人とも職場が23区内なので、月14万円の払いで済むなら都心に近い小さなマンションにでも思ったりもするのですが・・・。



子供のために広い所へと苦勞して引っ越したのに娘は新しい環境に暫く馴染めず、最初は苛められ、その内苛める側に回ったり。学校にも呼び出され、転職したばかりで研修中の高橋カーテンウオールの工場から、外環道を時速140キロくらいで車を飛ばして帰り、捕まったこともありました。中三の夏には体育の時間に学校のプールに飛び込み首を骨折、頸椎が飛び出し、死ぬのではないかと心配もしました。そんな娘が披露宴で、ワルになりかかった時に飛んで帰ったお父さんに頬つぺたを殴られて・・・などと話したりするものだから、不覚にも涙を流してしまいました。

少子化が進み子育て支援が声高に叫ばれますが、子育ての楽しさが語られることが少ないのではないのでしょうか？確かに情報化社会での子育ては子供の成長につれて外部、特にテレビを中心としたマスメディアの影響が大きくなり、その分困難を増していますが、日々発生するトラブルを解決して行くことは、恰も解のないパズルを解くが如くで、これほど楽しいものはありません。幸い40歳まで受験産業に身を置き、時間に余裕のあったは、世の男性に較べると子育てに多く関わったと思いますが、男性がもっと子育ての楽しさを味わうことのできる働き方、会社の在り様にならないと、保育園など子育て環境が充実しても、少子化には最終的に歯止めがかからないのではないのでしょうか？

◎帯路（タイロウ）100元

結婚式の後、親類縁者で上海から杭州へ200キロ、かつての南榮150年の都、人口180万の浙江省の省都へ、大湖へ、朝の通勤ラッシュと逆行し高速道路をひた走る。ラッシュも終わると道が片側三車線から二車線になり、上海郊外から松江へ。水路の発達する工場地帯にところどころ小麦畑や水田が顔を出し、次いで農村と工場地帯の繰り返しとなり、集落が切れ目なく続く。

小麦を刈り取る者があれば、切り株や籾殻に火を放つ者、水田を粗起こしする者。水を張る田圃もある。乾燥した北の黄河流域とは異なる風景が車窓を流れる。南船北馬だ。小麦と米の二毛作だが耕地は狭く、人力で耕している。耕運機などの機械どころか、農耕用の牛や馬も見かけない。農業の生産性も生産力も低そうだが、その割には3、4階建ての立派な家が立ち並ぶ。屋根にステンレスの大きな玉を3、4個くっつけたアンテナか避雷針のような物が軒並み付く。ガイドに聞くと単なる飾りで、避雷針どころか雷が落ちるといふ。外資などの工場が多く、道路も恰幅中で建設投資も盛ん。農外所得で潤っているのか？父ちゃん、母ちゃんは工場で働き、爺ちゃん、婆ちゃんの二ちゃん農業か？

春先に上海に来た時に寄った蘇州への百キロの道は工事中で、杭州へ行くのと同じくらい時間がかかったが、今回は快適にドライブできた。所々にサービスエリアがあり、給油や簡単な食事ができる。土産物の他に本もおいてある。トイレも綺麗だ。トイレと給油所だけの北京一大同間の高速道路のただっ広い駐車場だけのサービスエリアとは大違いだ。日本の高速道路のイメージに近い。杭州の街も蘇州に較べると大きく、綺麗だ。大湖の水はきれいとはいえないが、湖上に船を浮かべるのは漁師か、湖水の遙か向こうには高層ビルが立ち並ぶ。


帰路上海まで20～30キロという辺りで、高速道路の端に手書きの看板を持った人が沢山立っている。上海の地理不案内な地方からのドライバーに、上海の道を案内するアルバイトだという。帯路と言ひ、うまく客が見つければ一度で百元（千300円）稼げる。帰りの交通費は自分持ちで、地下鉄やバスで帰るのだという。





◎ 200元の急須を100元に


美味しい中国茶をお土産に欲しいとガイドに言うと、上海の地下鉄1号線の駅の出口脇の茶房に案内される。花茶を急須に入れてお湯を注ぐと、綺麗な花びらが開き、味もいい。お菓子つきで1杯58元、食事付きでも同じだという。茶がメインで食事は添え物だ。沢山あるお茶や菓子をみていると、初老の紳士が流暢な日本語で説明してくれる。随分詳しい、オーナーだろうか。聞くと、常連客で上海日本人商工会の常務理事をしている、店の奥が日本人商工会のサロンになっていて、碁を打っている10組ほどは皆日本人だという。娘の結婚式に出席してくれた駒場の中国語クラスの同級生で、三菱商事上海駐在の宮内君のことも当然のことながら良く知っている。話していく内に、関西の私大を出て上海に留学していた従姉妹の娘が、彼の下で働いていることもわかる。



ここは花茶1個20円で物はいいが、高いという。ホテルの近くに手頃な店があると教えてくれる。ガイドに案内してもらおう。5個入り木箱付きで12元、皆が欲しい数を足すと50箱になるが、26箱しかない。直ぐ取り寄せるか、他所の店から融通してもらおうか、どうにかならんかというが、明日でないと入らない、しかも残りは前金をもらわないと取り寄せないと、頑なだ。オーナーらしい人間と何度か電話でやりとりしている。全部売ったら又仕入れるのだから、前金など要らないと思うが埒があかない。店番の娘達には裁量権がないらしい。

ガイドがもう一軒心当たりがあると、浦東に渡る。船着場のレストランの入り口に茶店がある。愛想がいい。ガラスの急須で淹れた花茶を試飲させ、一個2元だという。綺麗なブリキの缶に入れてくれる。探した甲斐があったと皆満足だ。花茶を美味しく味わうにはやはり、ガラスの急須の中で花開く様を眺めながらがいい。急須も欲しくなる。200元だという。それは高い。半値でどうだというと、いいと言う。日本に帰ると高かった、もっと値切るんだと反省するのだが、その場で半値にまけさせると、何となく得した気分になる。彼我の商慣習の違いには何時も戸惑う。が主に生業とする建築工事の現場では単価が桁違いで、値段の交渉は当たり前だが、末端の日常生活品のレベルまで全てゼロからの値段の交渉では疲れるし、時間とエネルギーの無駄遣いではないだろうか？

◎ ITを駆使？国際ビジネスを仲介？！

上海の娘と携帯でメールをやり取りするが、娘はパソコンからなので、開けないと暫くメールが帰って来ない。携帯のメールアドレスも教えるようにメールすると、中国ではiモードのようなものではなく、ショートメールしかできないと言う。パソコンを介しても遠く上海にいる娘と瞬時に、安価にコミュニケーションできる訳だから、にとっても、も大した進歩である。

ようやく携帯メールも使えるようになったであるが、顧問先のダイオーズの大久保社長が、婿の胡岱（フー・ダイ）と会いたいという。韓国、台湾に続いて上海でもオフィスコーヒーやピュアウォーター、リサイクルトナー、化学雑巾・ドアマット等のデリバリーやレンタルの事業を始めたが、中国に進出した日系企業相手に経理処理や許認可事務等の代行業を営む婿に、上海で始めたばかりの事業を応援して欲しいらしい。

顧問先のダイオーズの役に立ち、婿殿のビジネスにつながるなら、に異議はない。まさに情報仲介を業とするの本領発揮といきたいところである。東京と上海を携帯メールでつないで、婿殿とダイオーズ大久保社長の上海での面談をお膳立てする。



◎携帯をバケツにポチャリ！

今や🐟にとってなくてはならない携帯電話であるが、事務所のベランダで鉢植えの手入れをしている時に、水の入ったバケツに落してしまう。直ぐ掬い上げるが、電源が入らない。アシスタントはドライヤーで乾かすと生き返るといふ。だが、ドライヤーは事務所にはない。近くのラティオインターナショナルの井口社長に電話する。ドライヤーはないが扇風機はあるという。扇風機にかざすが生き返らない。

近くのドコモショップに行くが、買い換えても電源が入らないとデータを取り出せないという。おまけに同じ充電器が使える機種はその店にはない。八重洲と丸の内の店に問い合わせてもらおうと、本郷の店では8千数百円なのに、1万3、4千円するという。店によって値段が違う！これでは一物多価の中国ではないか！？末端に来るほどインセンティブが出るので値引きできるらしい。

思い余って事務所に帰り、ガスコンロで炙ってもらっても生き返らない。仕様がなくて、ベランダのエアコンの室外機の吹き出し口の前に暫くぶら下げて置くと、奇跡的に？生き返り、電源が入る。努力の甲斐あって、入った水が蒸発したらしい。無事回復したが、基盤が一度水に濡れると早晚駄目になるという。バッテリーも弱くなっているのだから、カメラ付きに買い換え、バックアップも取ってもらおう。充電器なし、50歳以上に適用のシルバー割引、累積ポイントを使って、2千円ほどで、新しい携帯を手に入れる。

◎γ-GT 92なんて普通だよ！

前回6月頭の診察で三楽病院の主治医の阿川先生から“干場さん！癌は助かっても肝臓を悪くして死にますよ！”と宣告される。以来、原則土日は休肝日にして、350ミリのノンアルコールビール2本だけで我慢している。その時指摘された数値がγ-GTは昨年6月が53、10月が92、今年4月が69、総コレステロールが193、204、249である。基準範囲はγ-GTが0-60、総コレステロールが130-220とあるから、確かにオーバーしている。それに大腸がんが転移するのは先ずは肝臓だ。それでは休肝日を週二日にします！と阿川先生に約束したのだ。

印刷屋の営業のK君が事務所に顔を出す。そう言えば去年肝臓悪くして入院してたんだ。お前、γ-GT 幾らだったんだ？尋ねると、3百を越えていて、今も2百以上あるという。それで酒止めてんの？畳み掛けると、毎晩飲んでいると言う。それであいつ調子悪そうだと少しは納得。三鷹寮同期の東芝のI君の携帯メールのアドレスが目に入ったので、肝臓の数値幾らなの？とメールすると、480で断酒中で、ビールなんか世の中から消えてしまえと、恨み言を言う。不摂生なんじゃないのとコメントをつけて現状報告すると、長文メールできるじゃないという褒め言葉と一緒に、お前に不摂生なんて言われたくないよ！それはそうだと。

二人の数値を聞いて少し安心する。もう一人飲兵衛に聞いてみよう。緑の地球ネットワークの高見君に電話してみる。何しろ黄土高原でウオッカ並みの度数の白酒（バイチュー）で鍛えている。ひどい数値だけどウコン飲んでからぐっと下がったよ、春ウコンがいいよと言う。対策も見えて来る。数値は極端に悪い数値でもないし、断酒に至る前の対策もみつかった。だが、弱った肝臓には癌も転移しやすいというハンデもあるから、取敢えず週二日の休肝日は守ることにする。



◎地震学・火山学の過去・現在・未来・・・三鷹クラブ第 61 回定例懇談会

講師の大久保修平東大地震研究所長（昭和 47 年入寮・これまでで一番若い講師）が東大に入った年、つまり、三鷹寮に入った 1972 年はまだ学生運動が活発に続いており、入学したら駒場はストライキ中で講義もなかった。一方では日中国交回復もあり、まことにあわただしい時代だったが、その合間を縫って、私は夜ごと三鷹寮の運動場で星空を見上げた。この広い運動場で、星座盤に出ている星座を全部見てやろうと思ったのだ。そんな私に、寮生の杉山卓郎君が「大久保修平っていう寮生、知ってる？週末ごとに高尾山に登って星を観測しているらしいよ」と言う。こっちは三鷹寮の運動場で済ませているのに、向こうは高尾山か。これは負けたと思ったが、肝心の久保君には、2 年間、なぜか会えないままだった。謎の人物だったのだ。ところが、3 年生になって豊島寮に移ったら、そこに大久保修平君も移ってきた。そこで初めて顔を見たのだが、謎の人物どころか、東大の学問水準を支えているという雰囲気、静かに漂わせているのではないか。

三鷹寮の時代、私とやはり寮生の二宮賢治君とで登山会を造っていた。豊島寮に移ってすぐ、この登山会で、6 月に上高地で開かれるウエストーン祭に出ようという話になった。ウエストーンは上高地を開いた人物である。そこで思い出したのが大久保君の存在だ。高尾山に登るぐらいだから上高地も行くだろうと思い、ためらいながら「大久保君、君、ちょっと上高地まで行かへん？」と声をかけたら、二つ返事で「いいよ」という声に戻ってきた。ついでに「ところで君、なに勉強してるん？」と聞いたら、「あの、プレートテクトニクスというの、知ってる？」と聞き返された。「おお、日本沈没やな」と答えると、「そうそう、それぞれ」とうれしそうな顔が返ってきた。その翌年の 2 月か 3 月、「大久保君、スキーやらへん？」と聞いたら、「やったことないけど」という。「おお、教える、教える」と答えると、「じゃあ、行く」という返事が来て、また二宮君たちと今度は野沢温泉にスキーにでかけた。三鷹寮の謎の人物は、実は、とても気さくな人だったのだ。

その大久保君が三鷹クラブでスピーチをするというので、スピーチの前に、まことに久しぶりに会った。20 数年の時を経て、東大地震研の所長という立派な肩書きになったけれど、再会した大久保君は、ほとんど当時のままであった。「どこに住んでるの？」「いや、三鷹寮のそばなんだよ」。「なんだ、結局、三鷹寮に戻ったということか」。「うん、そういうことなんだよ」。

私も大久保君も、あの青春の三鷹寮こそ人生のひとつの原点なのだが、彼が本当に原点に戻っているとは知らなかった。（文責 S47 年入寮 岡本勉＝読売新聞社）

日時：平成 17 年 7 月 29 日（金） 18 時 30 分～21 時

場所：学生会館本館 203 号室（千代田区神田錦町 3-28 Tel 03-3292-5931）

会費：5000 円（会場費・夕食代・通信費等込み）

二次会：有志による二次会をすずらん通 SANKOUEN にて開催予定

申込先：干場革治 Fax 03-5689-8192 Tel 03-5689-8182 有限会社ティエフネットワーク

Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎オデンとイスラム

昨年末三鷹寮のイベントで知り合った交換留学生達と、6 月にオデンでコンパをする。いつものようにおでんをつくり、寿司とピザを取ってご馳走しようと張り切る。04 年度交換留学生のアップルちゃん（マラヤ大学の日本学科 3 年生）、Phan Quynh Hoa（ファンク



イン ホア、ベトナム)、Dyah Widiastuti (ディア ウィディアストゥティ、インドネシア)、袁 一丹 (ユアン イーダン、北京大学中文係現代文学、中国)、アーマド ファウザン (マレーシア)、ファジャール (インドネシア) に事務所に来てもらう。男女半々だ。

おでんの材料を買って、リーダーのアップルちゃんに聞くと、回教徒が3人いると言う。それではポークソーセージは駄目だと、アシスタントに指示する。折り返しアシスタントからおでんのパック見たら出汁に豚肉使ってますとメール。これも駄目だ。デパートで豚肉抜きの出汁を買って帰る。ピザもベーコン入りは止める。日本の学生も薬学部大学院の日比野さんと農学部4年の豊野まなみさん、理科Ⅱ類から、文科Ⅰ類に入り直した坂東樹君の三人、それにOBでケンコーポレーションの西沢正君 (S50年入寮) の合計11人が狭い事務所に集合する。


始める段になると、先ずお祈りしないとということになり、持参のビニールシートを床に敷いて、メッカの方角はどちらかと尋ねられる。西でいいのだろうということになるが、ビル街では方角はわかりづらい。取敢えず東大の方角をそれと定めて、三人順番にキッチンでお浄めの後、膝まづいて祈り始める。いざ食べる段になって鶏肉や牛肉ならいいだろうと思って勧めると、肉は駄目、ちゃんとお祈りをしてから殺した肉じゃないと食べられないといい、冷たい甜茶をチビリ、チビリやる。

エジプト、インドネシア、マレーシアとイスラム教国を旅したが、回教徒と食事するのは今回が初めてだ。大いに勉強になる。11時過ぎにお開きになるまで、国籍、人種、宗教、年齢を超えて話が弾む。草の根の国際交流だ。皆日本は楽しいという。彼らが日本びいきになって母国に帰り、いずれ指導的地位についたり、日本に根を下ろしてくれるのが、大いに楽しみである。

◎ 能代港を環境産業の一大拠点に！

同和鉱業が秋田に研究施設をつくるので、そこで使う試験用具の営業の応援をという会社があり、吉川廣和社長 (S37年東大三鷹寮入寮) にお会いしていただき、能代港の利活用にも話が及ぶ。同和鉱業は小坂や花岡の北秋に銅などの非鉄金属の鉱山と精錬所を持ち、それを利用して汚染土壌の処理や、使用済み携帯電話や廃自動車などの産業廃棄物から金や銅などの有用資源を回収し再資源化する、リーディングカンパニーである。


汚染土壌や産業廃棄物は青森港から北秋に運んでいるが能代の方が近い。それにエコタウンの指定に能代まで拡大され、能代から小坂までの高速道が完成すると料金を無料にすると県知事が言っているので、能代港を利用したい。能代に物を降ろしてただ運ぶだけでは能がないので、能代で処理できる物は処理するようにしたいとのこと。当然一部の処理施設を能代港の今は草ボーボーの工業用地につくることになり、雇用も新たに生まれる。そこから新しい事業も派生、環境産業の一大拠点として発展させることも期待できる。

産廃を違法に受け入れ、廃液を垂れ流したままで野垂れ死にした能代産廃の後遺症もあるようだが、今や環境産業は最先端の産業だ。環境を汚染することは自身の命取りになるので絶対ないし、高度の技術を我が社は持っている、行政の協力が鍵だと吉川先輩。生まれ故郷の八森町には、かつて住友金属鉱山の子会社の大日本鉱業発盛鉱業所があり、が中学生の頃は校庭にまで、硫化硫黄の排ガスが流れて来た。その跡地も是非利用して欲しいとすかさずアピール。検討してもらうことに。



◎小野寺君住不の代表取締役に・・・だって代表取締役！？

顧問先の高橋カーテンウォールの営業部長から、能代高校同期の住友不動産小野寺専務が代表取締役になった記事が新聞に出てるよと連絡。さっそく本人に電話、ついでに彼のスケジュールも確認、7月25日に、延び延びになっていた能代高校在京同期会を住友不動産直営の「どんと」(新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル 49F、TEL: 03-3344-6269)でやることにする。同期生の皆さん奮ってご参加下さい。

も、株主も社員も一人の会社の代表取締役を名乗っているが、大住不を代表するのだ。責任も重大だ。先日、日本設計の伊丹社長にお会いしていただいた時に、住不の小野寺専務、干場さんの同級生なんだよね。代表権持って、ナンバー3だよ、今度挨拶に行く時干場さんの名前出していい？と、これまでと少しトーンが違う。三鷹寮の大先輩の高島社長と面会していただいて帰る時に、NSビルのエレベーターホールで再会した。以来、時々飲み会やゴルフに付き合っていていただいているが、今後とも宜しくお願ひしたい。

◎10. 4 通信 50号記念ショー

本通信も次号で50号を迎えます。それを記念し10月4日の夕方、表参道のテアトロスンガリー青山で、加藤登紀子さんのトーク・ミュージックショーを開催します。一部で加藤登紀子さんと緑の地球ネットワークの高見事務局長、小島敏郎環境省地球環境局長にもできれば参加していただいて、「緑の地球を救おう！」(仮題)というテーマで対談していただき、二部でオトキさんに新曲を含めて数曲歌っていただき、その後、美味しいロシア料理とウオッカ、ロシアティを楽しみ、交流してもらおう予定です。参加の皆様からは会費をいただきますが、その収益はNPO法人「緑の地球ネットワーク」の黄土高原緑化事業に寄付させていただきます。詳細は次号でご案内致しますが、読者の皆様奮ってご参加下さい。


◎カモメール、今年の当選番号は下2桁49番です

恒例の？夏の秋田の味プレゼント、今年の当選番号は封筒の表のナンバー下二桁49番です。当選された方には秋田名物ハタハタ入り、白神の魚一夜干しセットを贈らせていただきます。品物の発送を以って、当選発表とさせていただきます。

◎おむすび「権米衛」を宜しく！

首都圏で手づくりおむすびチェーン店「権米衛」を展開する(株)イワイは都内を中心に おむすび専門店を24店構え、そのうち10店舗で減農薬、無農薬の秋田県二ツ井町産の「あきたこまち」をおにぎりに使って販売しています。同社の岩井社長は、「二ツ井町産のあきたこまちの味は最高」と評価していて、販売店を増やしています。また、二ツ井高校の卒業生を社員として採用していて、雇用などにも効果が広がっています。

◎最後に・・・社長！が足りません！

前号で2600名の読者の皆様と呼び掛けましたが、発送作業も終わりに近づいた頃、社長！が足りません！とアシスタントの声。2800部印刷して、百部自宅に持ち帰ったので、2700はあった筈なのだ。不足分はコピーして発送してもらおう。今回は多めに2900部刷ってもらおう。数寄こそものの道理なれとはいうものの・・・。読了多謝！

